

政務活動報告書

令和4年12月14日

[会派名: 喜働]

代表者氏名	川合 滋 印	記録者氏名	足立 淑絵 印
活動者氏名	川合 滋 足立 淑絵		
活動日	令和4年10月27日(木)～令和4年10月28日(金)		
活動先	・出雲科学館(島根県出雲市今市町1900-2) ・奥出雲町追谷地区(島根県仁多郡奥出雲町竹崎803-1)		
活動目的	・授業における出雲科学館活用 ・農村風景を生かした観光推進事業『たたら灯』		

★授業における出雲科学館活用★

○出雲市の概要

- ・平成23年10月1日、出雲市と斐川町が合併し、新しい出雲市が誕生
- ・人口:17万4000人
- ・面積:624.36Km
- ・1学年1600人位

○出雲科学館の沿革

- ・平成14年(2002年)7月 開館(合併前に建設)
- ・平成19年(2007年)7月 理科学習棟が開館
- ・令和4年(2022年)開館20周年

○出雲科学館の目的

我が国の小中学校理科教育の現状は、児童生徒の科学する心の衰退、理科・数学への関心の低下など、我が国の将来に大きな問題となっています。このような問題に対処するため、出雲市では児童生徒の理科学習環境の画期的な改善・充実を図り、市民各層の知的好奇心を高め、科学技術の知識や技術の高度化を目指すことにより、21世紀出雲の人材の充実・強化、産業・経済の発展を図っています。

○出雲科学館の概要

- ・2つの柱(科学館理科学習、生涯学習事業)がある。
- ・市内の全小中学校(小学3年生～中学3年生まで)、特別支援学校の理科学習の一部を出雲科学館で担う。
- ・1回当たりの授業時数は3単位時間(45分×3)
- ・各学校からの送迎は、民間委託によりバスで行う。(移動中は科学系のDVD鑑賞)
- ・1人1台の顕微鏡があり、最新鋭の精巧な機械を取り揃える。
- ・日系ブラジル人が就労し、そのお子様達に通える日本語初期集中教室も科学館内にある。

○建設事業費

- ・本館:33億8710万円(設計費、用地費など含む)
うち地域総合整備債27億9490万円
- ・理科学習棟:9億705万円(設計費など含む)
うち合併特例債8億6165万円

○施設内容

本館 ・サイエンスホール(170席)

- ・会議室(会議、科学教室、講話)
- ・研究室1(現在は日本語初期指導教室に活用)
- ・実験室(2部屋)
- ・実習室(2部屋:実習室1にはプラネタリウム設置)
- ・創作工房(木工室、工作室、金工室)
- ・展示体験プラザ(常設展示装置を設置)
- ・ホワイエ(企画展などのイベント会場)

理科学習棟

1階 実験室(2部屋)

2階 実習室(2部屋)

3階 多目的室(最大3部屋に分割可)

※ 多目的室1にプラネタリウム設置

○理科学習支援実施内容

大きく4学習に分かれる。

- ①小中学校理科学習(年120日)小学3年生～中学3年生(13単元の授業)
- ②リカム科学教室(年4回)小中学校の特別支援学級在籍者対象
- ③Let`s 理科学習(年3回)中学生不登校傾向生徒(含教育支援センター)対象
- ④Enjoy 科学教室(年9回)不登校(在宅)小中学生対象

小学3年生:風やゴムの力で動かそう

小学4年生:月や星の見え方、水のすがたと温度

小学5年生:魚の誕生、流れる水の働き、ふりこのきまり

小学6年生:物の燃え方と空気、電気と私達の暮らし

中学1年生:物質の姿と状態変化、火をふく大地

中学2年生:物質どうしの化学変化、植物のからだのつくりと働き

中学3年生:科学技術と人間

※ 生活に関連付けた授業づくり(水と災害)に努められる。

※ 科学館員と学校教員とでチーム・ティーチングを行う。

○その他教室

- ①夏休み科学研究教室
- ②幼稚園理科体験学習(出前教室)
- ③理科教員研修(+1理科講座)
- ④松江高専校外学習

○出雲科学アカデミー

- ①サイエンスショー(3種類18回開催)1,097名参加
- ②チャレンジ！実験教室(16種類284回開催)3,571名参加
- ③チャレンジ！ものづくり教室(21種類385回開催)4,609名参加
- ④なるほど！実験教室(3種類11回開催)73名参加
- ⑤なるほど！ものづくり教室(3種類10回開催)128名参加
- ⑥自然・環境教室(8種類13回開催)295名参加
- ⑦島根県しまね海洋アクアスとの交流事業
- ⑧チャレンジ！木工教室(7種類107回開催)1337名参加
- ⑨なるほど！木工教室(7種類10回開催)77名参加
- ⑩木工創作教室(19回開催)143名参加
- ⑪レベルアップ☆サイエンス(5種類20回開催)184名参加
- ⑫大人のための理科学習(1種類2回開催)7名参加
- ⑬子ども科学学園 299名参加
- ⑭子ども天文クラブ
- ⑮地域団体かがく教室
- ⑯わくわくかがくひろば
- ⑰おもちゃの病院
- ⑱3D映画・プラネタリウム
- ⑲出雲少年少女発明クラブ 613名参加

○効果

- ・来館者の低年齢化
- ・地元の出雲高校では理科系を選ぶ子が多い。

◎所感◎

建設当時の市長(文科省出身)肝いりの事業だったこともあり実現したと感じました。そのような中、昨今では国内における『ものづくり』が低迷していることを肌を感じる機会も多く、コロナ禍のマスク不足、半導体の国外生産による影響など、国内生産力の弱さを感じずにはいられません。『ものづくり』に必要な力は『理系』に強い人材と考えます。そこに置いて出雲市は科学教育に力を入れ、理科系を選択する学生が多く、市民に親しまれる科学館があることは、科学技術による「まちおこし」のみならず、将来の『ものづくり』日本を支える優秀な人材を誕生させる地域となることが予想されます。未来に投資する価値を感じた視察でした。

★農村風景を生かした観光推進事業『たたら灯』★

○奥出雲町(追谷地区)の概要

人口:1万1570名(2021年3月1日)

うち、たたら灯実施の追谷地区70名位

農事組合(追谷地区)があり、農機具は1台あれば何とかなる。

○『たたら灯』が始まるまでの背景

- ・米がひと袋5000円になる。このままでは農家が立ち行かない。
- ・そのような時、東京から龍馬の会(社長グループ)が来る。
- ・龍馬の会会員、株式会社プリアップの明永社長が、「このままじゃダメだ。追谷地区の米と農村の景色を残さないといけない。」と思って下さり、再訪される。
- ・追谷地区のお米を9トン買ってもらえることとなる。玄米でも出荷している。
- ・ひと袋8500円が農家の収入になる。
- ・「農村風景を遺すため、棚田のライトアップをしてはどうか。」と、明永社長より提案いただく。
- ・「面白そうだから、やってみよう」と、5名位で始まる。
- ・プレーキを踏む人がいなかったため、とんとん拍子で話が進んだ。
- ・棚田のライトアップ(ペット蛍利用)に、明永社長が300万円資金提供してくれた。

○『たたら灯』内容

- ・7年前(2015年)から始まる。
- ・当初の開催は11月であったが寒さと雪のため、現在の実施時期は大体、10月位となる。
- ・当初は農事組合が主催
- ・ペット蛍6000本使用、装飾のLED総数は、1万個位
- ・同時に竹灯籠2000個も並べるが、キャンドルをつけるのが大変なため2年で終わる。
- ・自治会の方(追谷地区70名位)に召集をかけて実施するので、自治会が行った方がいいのではと議論され、現在のやり方(実行委員会形式で行う。)となる。

○『たたら灯』事業に関連して

- ・市内にポスター100枚、チラシ1000枚、インターネットで告知
- ・『笑楽本舗』というコミュニティの方(米子市の方々が中心)が声掛けして下さり、他地域より人を募集して田植えや稲刈りをして下さる。毎年、10人位が『たたら灯』の手伝いに来てくださる。

○『ペット蛍』に関して

- ・都度、発注している。船便だと、1ヶ月位かかる。
- ・蓄電池1本180円、毎回外すと数年、長持ちする。
- ・石川県能登半島の『ペット蛍』は年中置いている。しかし、昼間はキラキラ光るので、カラスが持っていく課題がある。

○今後の課題

- ・現在、行政とのつながりはない。
- ・中山間の補助金、水と農地の補助金の対象外の地域
- ・イベントだけでなく、日頃の田んぼの草刈り費用位は行政から出してほしい。

○奥出雲町の魅力

- ・追谷地区に住む皆様の親切で優しい人柄。暗闇の中、道に迷っていた私達を住民の方が現地まで案内してくれた。
- ・カンナ流しの起点(全国唯一)

◎所感◎

『窮地に追いやられた地域は、必死に小さな縁を生かしていく』そのような姿をまざまざと見せられた気がします。

米が少しでも高く売れることは農家の方にとって生活に直結することであり、高齢化と人手不足の問題を都市部の方と手を組み解決策を模索する姿は、真の地域活性化の姿だと感じました。

本市も将来負担比率160%超えの稀に見る財政的危機のまち。こちらをしっかりと自覚し、発信して、市民全員でこの窮地を乗り越りたいと思います。外貨を稼ぎ、豊かなまちを目指します。